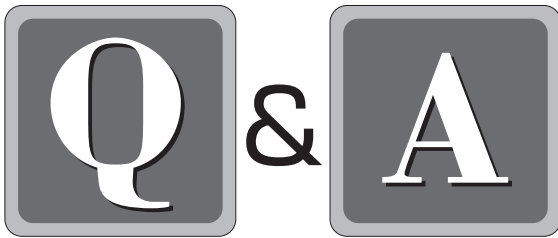


# 抗加齢専門医・ 指導士認定試験のための



齋藤 英胤 *Hidetsugu Saito*

慶應義塾大学大学院薬学研究科薬物治療学教授

✉ hsaito@keio.jp

## 専門医のためのQ&A

Q1

胃粘膜萎縮の指標となる検査項目はどれか。

解答肢

- a. コルチゾール
- b. テストステロン
- c. アルドステロン
- d. ペプシノーゲン
- e. アディポネクチン

A :

解説

ペプシノーゲンは、胃液中のタンパク質分解酵素であるペプシンの不活性型前駆体である。免疫学的にペプシノーゲン I、ペプシノーゲン II に分けられ、ペプシノーゲン I は胃底腺領域に存在し、ペプシノーゲン II は胃底腺のほか、噴門腺、幽門腺および十二指腸腺に存在している。胃粘膜の萎縮が進行すると、胃底腺領域は萎縮し

幽門線領域が拡張することから、ペプシノーゲン I に対してペプシノーゲン II が相対的に増加するため、ペプシノーゲン I / II 比が低下する。ペプシノーゲン I 値、ペプシノーゲン I / II 比の組み合わせによる解析は、萎縮性胃炎や胃がんの高危険群のスクリーニングなどに用いられている。

(答え : d)